

「ジョブ型」はもう古い!

生産性向上と
人材不足対策の切り札は
「**自営型**」同志社大学
政策学部教授おおた はじめ
太田 肇 氏株式会社
プレジデントズビジョン
代表取締役いしはら なお ゆき
石原 尚幸従来の「メンバーシップ型」でもなく、欧米のような「ジョブ型」でもない、
日本企業に最適な新しい働き方「自営型」について、太田肇先生取材しました。▼太田先生はジョブ型は日本企業
にはなじまないとお考えです

従来の働き方は企業のメンバーとしての地位を得て働く「メンバーシップ型」。それに対して、「ジョブ型」は会社の中のある一つの職務を特定の人と契約する関係です。企業にとっては年功給が減ることによる賃金コストの抑制、社員にとっては専門性が発揮できるというメリットがあります。しかし、ジョブ型の導入はスムーズに進まないと思っています。

▼それは、なぜですか?

ジョブ型は仕事の内容が定義され、その仕事が必要であれば雇用し、必要でなくなれば解雇されます。ところが日本の法律では仕事がなくなくなったの理由での解雇は難しい。大企業なら組織内の異動で対応できても中小企業では不可能です。

また、日本のように新卒でいきなり採用した社員は、当然ながら職務をこなす能力はありません。ジョブ型では一人前になるまで、誰がどこで育成するかという問題が生じます。そのため、私はジョブ型ではなく「自営型」こそが日本企業に最適な働き方だと考えています。

▼「自営型」とはどのような働き方ですか?

「組織に属しているか否かに関わらず、自営業のようにまとまった仕事を一人でこなす働き方」です。これまででは働き方を管理しようとするのではなく、創造性

の高いアウトプットを出すためには自由に仕事をする必要があります。天才たちは散歩をしながらアイデアを生んでいたそうです。これからのビジネスマンも散歩をしたり、スマホをいじりながら仕事をすれば良いのではないのでしょうか。人の頭の中(思考回路)まで管理はできません。管理職はアウトプットを見ればよく管理ではなく「支援」をしてあげる存在で良いと思います。

▼生産性を上げるために今何をすべきでしょうか?

環境と指標を変えるべきです。世界中のオフィスを回りましたが、鳥型で隣の人の顔が見えるオフィスは日本だけ。欧米のオフィスは間仕切りがあり、自分の仕事に集中できる環境です。また、「充実感」こそが組織の指標だと思っています。集中できる環境を整え、自営型として、任された仕事を自分でやり逃げ、世の中へ貢献することで「充実感」を得る社員がたくさん生まれれば、日本企業の実績も上がっていくはずですよ。

▼社外参謀の考察

やるべきことを自分で決め、成果を出す「自営型」今後は導入しても良いかもしれません。うちの社員は「まだまだ…」とは思ってほしいが、すべての社員ではなくとも、一部の社員からでも権限を与え、成果で管理する。会社はそのプロセスを支援する存在となる。この仕組みの中に生産性向上のヒントがありそうです。

構成/竹内徹(インクデザイン)

『五つ星経営フロー®』そのコツが2時間でまるっとわかるセミナー、開催中です

五つ星経営アカデミー【入門編】

脱ドンブリ経営実践セミナー

こんなお悩みをかかえる中小企業社長にぜひ知ってほしい

- ✓ お金の不安から解消され、本業に専念したい
- ✓ 利益を増やしたいが何から手を付ければよいかわからない

「お金の
ブロックバズル」が
まるっと解決!

開催日時

2月17日	10時~12時	新大阪
3月23日	10時~12時	新大阪
4月18日	16時~18時	福岡

受講料:
3,300円(税込み)詳しくは
こちら

PRESIDENT'S VISION

https://presidents-vision.com/

株式会社プレジデントズビジョン

本社	東京都港区高輪3-19-22-204
新大阪 オフィス	大阪府大阪市淀川区西中島4丁目5-1 NLC新大阪パワービル4-F
姫路 オフィス	兵庫県姫路市白浜町寺家1丁目177-1 A202 TEL: 079-246-5018

経営のヒントを無料配信中!



『社外参謀◆今朝の一言』

メルマガご登録はこちら